

大芦小学校に関する懇談会

令和8年5月20日(水) 19時～21時

【参加者数】

・大芦小学校 PTA 役員:6名

【出席者】

・飯島課長
・根井副課長
・堀主任

【主な意見とその回答】

- 事前にいただいた資料では「令和10年度の統合に向けて」という回答が見受けられるが、これは初めて示されたものか。
⇒令和8年1月11日に開催した大芦小学校の統合に関する説明会にてお示ししている。
- 統合により子どもが登校できなくなってしまうことが心配などの意見があるが、統合準備委員会の事業内容を具体的に教えてほしい。
⇒統合の1年前に統合準備委員会を設置し、交流事業等について話し合い、実施する。
大芦小学校と吹上小学校の統合にあたっては、令和8年度、令和9年度と2年間にわたり交流事業を実施し、児童の不安の軽減に努めていきたいと考えている。
- 回答の中で「児童数が極めて少数」との表現があるが、市としての人数の基準はあるか。
⇒児童数の人数について明確な基準は設けていない。全学年が単学級であることを一つの基準として、大芦小学校と吹上小学校の統合の取組を進めている。
- 通学距離について、文部科学省等が定める適正基準はあるのか。
⇒小学校においては、4kmを超える場合が遠距離通学とされている。
市教育委員会では、適正配置等に伴い通学区域の変更が行われた学校の児童のうち、当該学校から直線距離で2kmを超える区域から通学する場合に、スクールバスによる登下校支援を実施している。
- 旧小谷小学校は、吹上小学校まで約2.8km離れているが、統合後の通学方法は。
⇒小谷小学校に通学していた児童は、居住地により赤見台第二小学校、箕田小学校、吹上小学校が指定校となっているが、経過措置期間に限り吹上小学校への通学が可能。
赤見台第二小学校、箕田小学校を指定校とする地区から吹上小学校に通学している児童について

ては、通学距離が2kmを超えているため、市の基準に基づきスクールバスによる支援を実施している。

- 大芦小学校の通学区域で吹上小学校まで一番遠い世帯でどのくらい離れているか。
⇒約1.5kmである。
- 市内小学校で複式学級を指導した経験のある先生はいるか。
⇒現時点で把握していない。
- 統合に反対している児童・保護者もいることを忘れないでほしい。不安な気持ちを解消するためにも、詳細でなくても構わないので今後の計画や統合した事例を共有してほしい。
⇒統合に対する不安や御意見については、真摯に受け止めている。今後のスケジュールや過去の統合事例について、可能な範囲で資料等を用いて共有し、不安の軽減に努めていく。
- 今回初めて参加される方もいたので、冒頭に過去の意見交換会の記録や経緯などの説明があるとよかった。
- 今後 PTA でも新たにアンケートを実施しようと思っている。PTAとは別で実施しているアンケートもあるので、あわせて回答いただきたい。
⇒回答する。
- 交流事業はどんなことを実施するのか、具体的に知りたい。
⇒小谷小学校の閉校の際には、オンラインでの交流会に加え、9月と2月に吹上小学校にて交流事業を実施している。交流内容は以下のとおり。
【第1回】
自己紹介・校歌紹介・レクリエーション(合唱、運動等)・学校探検・感想発表
【第2回】
・1年:体育(ボール渡しリレー)・国語
・2年:算数(1mを探そう)・体育(縄跳び)
・3年:体育(リレー)・クラブ見学
・4年:国語・クラブ見学
・5年:ペーパー芯ロケット(理科)・クラブ見学
- 学用品の支給について、いつ頃決まるのか。また対象のものと対象外のものを教えてほしい。
⇒統合決定後に両校の学用品を確認し、体操着・ジャージ・学年帽子・水泳帽子など差異のあるものを把握の上、統合の1年前に支給する。
- 卒業式の校歌については、子どもたちからすると大事なこと。大人の都合で統合するので、子ども

たちの気持ちを拾い上げてほしい。

- 教員の配置がどの程度要望できるのか、確認して回答してほしい。
⇒教職員の人事は県が所管している。人事配置には様々な要因がからんでおり、すべての要望が反映されるわけではないが、教育委員会として、吹上小学校の教員配置について十分に配慮していく。
- 統合に関する疑問などの問い合わせ先は、市役所のどの部署に連絡すればよいか。
⇒教育総務課へ連絡いただきたい。
※通学区域の弾力化は学務課へ連絡。
- 令和8年度に交流事業を実施するという事は、令和10年度の統合についても説明することになると思うが、子どもたちにどのように伝えていくのか。校長から子どもたちに話す機会がないのも不自然。
⇒交流事業の実施にあたって、担任又は校長より令和10年度に統合を計画していることを子どもたちにお話する。
- PTA 活動で子ども110の家を引き受けていただいている世帯にご挨拶と粗品を配布している。吹上小学校のPTAは執行部しか活動がないと聞いているので、統合後、このような活動がどうなってしまうのか心配している。事前に調整するにはどのようにすればよいか。
⇒統合準備委員会にて PTA 活動についても整理する。統合準備委員会の設置前でも、統合決定後であれば、市教育委員会から吹上小学校のPTAに連絡し、協議の場を設けることは可能。
- 子どもたちの思いを汲み取れていないと感じているが、統合に向けての説明は誰が行うのか。
⇒小谷小学校の例でスケジュールをお伝えすると、令和10年度に統合を行う場合は、議会で正式な承認を得た後、令和9年1月の全校朝会で、教育総務課長と大芦小学校長から子どもたちへ説明を行う予定になる。
- 本日の出席者が PTA 役員に限定されていた理由は。
⇒以前の懇談会等では PTA 役員に限定せずに開催したこともあったが、長時間になってしまったことなどを踏まえ、事前に少人数で保護者が不安に思っている点等を整理するため。
- 統合に関しては、保護者によって認識が違うため、保護者を集めて教育委員会が改めて説明してほしい。
⇒授業参観後に実施予定である。
- 大芦小学校区から吹上小学校に通学することになるが、どんな通学路を通っているのか情報がないので、危険箇所などの確認ができない。事前に吹上小学校の通学路を情報提供いただきたい。

⇒別添資料のとおり

- 通学班の編成はどうやって決めていくのか。小谷小学校を統合した際の情報を提供してほしい。
⇒地区役員を選出し、通学班及び通学路を定めて学校に提出。
- 弾力化による保護者の送迎について回答されているが、吹上小学校の駐車場が利用できるのか、避けるべき時間帯があるのかなど、詳細が知りたいという声があるので追加で回答がほしい。
⇒吹上小学校の駐車場を利用可能。また、時間についても制限はない。
- 複式学級になる場合のフォローはあるか。
⇒他自治体では、市費で非常勤講師を採用し、教科によって単式学級で指導を行うことができるような配置を行っている。このような事例を参考に、複式学級のあり方を整理していく。
- 複式学級のデメリットを回答してほしい。
⇒一例とはなりますが、異なる学年の児童が一つの教室で1人の先生から同時に授業を受けるため、一方の学年が指導を受けている間、もう一方の学年は自習課題等をするようになる。
また、学級減に伴い教員数も削減されることから、一人あたりの校務負担が大きくなる。
- 統合にあたっては、現場の先生の意見を聞いているのか。
⇒学校の統合については、校長、教頭から意見交換を行っている。
- 八潮市や富士見市では単式学級を維持している。このような自治体の事例からメリットを伝えてほしい。
- 複式学級になってしまった場合のプランも示すべきではないか。
⇒市教育委員会としては複式学級にならないように吹上小学校との統合の取り組みを進めている。仮に複式学級となった場合は、他自治体の事例を参考に複式学級の運営方法を検討していくことになるが、現時点で具体的なプランはない。
- 地域の方々は、放課後子ども教室や校庭の草刈に参加してもらっている。こういった方は統合後の施設がどうなるのか、先に案を示せるようにしてほしい。
⇒地域の方にも、大芦小学校の今後の方向性について説明する機会を設ける。
- 旧笠原小学校の児童・保護者へ統合後のアンケートが公表されているが、旧小谷小学校の児童・保護者に統合後アンケートをとっているか。公表されているか。
⇒大芦小学校と吹上小学校の統合について意見交換等が行われた、鴻巣市立小・中学校のあり方研究懇話会の際に過去実施したアンケートの結果を資料として提供している。小谷小学校の児童に対して実施したアンケート結果については、現時点で公表していないが、個人情報をお示し

することは可能。

- クラス分けについて、大芦小学校の子どもたちを1つのクラスにまとめるなど、希望どおりにすることはできないか。
⇒全員を一つにまとめることで、新しい学校になじむのに時間を要することも考えられることから、これまでの学校統合で、一つの学級にまとめている事例は少ない。(学年の児童数が少数又は男女の児童数に偏りがある場合は一つにまとめている事例もある)
- 先生の配置について、大芦小学校から吹上小学校に来てほしい先生の希望をとって、県教育委員会に働きかけることはできないか。
⇒大芦小学校の教員を吹上小学校に配置してほしいという要望は出すことはできるが、誰が来てほしいといった希望をとるようなことはしない。
- 吹上小学校の放課後児童クラブは定員がキャパオーバーと聞いた。大芦小学校統合後は、どのようになるのか。
⇒令和8年度時点で吹上小学校の放課後児童クラブの定員には余裕があり、大芦小学校の放課後児童クラブを利用している29名全員が入室することが可能。
- 大芦小学校で実施している放課後こども教室は、どのようになるのか。
⇒学校や運営調整のスタッフが年度ごとに活動内容を定める。統合の前年度に大芦小学校で実施していた内容も踏まえ協議される。
- 少人数では、一人一人をよく見られるので、目立って注意され、逃げ場がなくなってしまう。1学年に複数の学級がある学校であったほうが良いケースもある。旧小谷小学校から吹上小学校に行った保護者の声を聴く機会があれば、大芦小学校の保護者の不安も少しは軽減されるのではないか。
⇒一人一人の児童に目が行き届くのはメリットでもあるが、行き届きすぎることにより、子どもが甘えやすくなったり、疲れてしまったりなどは少人数学級のデメリットとしても考えられている。小規模学級のメリットについては把握しているが、市教育委員会としては、クラス替えが可能である12学級以上の学校規模になるよう、教育環境を整えてまいりたいと考えている。
- 統合年度をはっきり伝えることが誠実な対応だと思う。
⇒統合に賛成というわけではないが、早く決めてほしいというような意見があることは承知している。市教育委員会では、令和10年度に向けて統合の取り組みを進めていきたいと考えている。
- 授業参観の後の懇談会では、参加しにくい家庭も多いのでは。土日でも参加できない家庭もあるので、複数の日程で懇談会を実施してもらいたい。また、子どもと一緒に参加できる場があってもいいのでは。
⇒開催日時等については、PTA、学校と相談しながら決定したい。

参加できない保護者に向けては、事前の質問事項の確認や議事録の送付にて、意見の聴取や情報共有を実施する。

- 統合のことを広報で突然知らされたことが不信感につながっていると思う。意見交換会や懇談会に保護者が参加しなくなっているが、意見を言っても教育委員会の姿勢が変わらないことも要因だと思う。

【本件のお問い合わせ先】

鴻巣市教育委員会教育総務課 小・中学校適正配置担当 ^{ねのい}根井・堀

電話:048-544-1210

Mail:kyoiku@city.kounosu.saitama.jp